政策コメンテーター報告（第３回、意見照会期間：2014年10月24日～11月５日） 稲葉 延雄：株式会社リコー取締役専務執行役員、リコー経済社会研究所長

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	９月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び（正規比率の上昇を含め）や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ（設備投資計画の動向も含む） ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向（一時的要因を除いた実勢と期待物価） ⑤ マーケット（株価、為替、金利等）の動向	消費税増税前の仮需が大きかった分、その反動落ちも大きく、経済を下押ししたことは事実。しかし回復が一四半期ほど後ずれした程度で、前向きの循環の力は維持されている。企業収益は好調であるし、設備投資意欲は低下していない。労働需給もタイトで、名目賃金も上昇している。個人消費は不調だが、今冬のボーナス等を勘案すると、年度を通した実質賃金の前年比が若干のプラスになる可能性もあり、この先ずるずると落ち込むとは考えがたい。 来秋の消費税増税への経済への影響を考える際には、あまり増税前の仮需が大きくならないような工夫も必要かもしれない。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身（自社）の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	地方は多様であり、それが魅力であるので、地方再生もワンパターンで進めるべきでなく、お仕着せの「東京化」はあってはならない。 モノづくりの視点からすると、歴史的に見て一定の産業基盤を持った地域であれば、それをテコに地域の活性化に結びつけられるが、何もないところに新しいモノづくり拠点をゼロから作るのは現実的でない。 大都市経済と地方経済の間の補完関係を十分認識しながら、自然との交わりの深い産業の高度化を通じて、豊かな地域社会を構築していくことが重要ではないか。同時に地域の住民に対しては、情報の格差や医療介護サービスの格差が生じないよう、最新技術を駆使して生活を支援していくことも必要である。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	最近、円安の悪影響を指摘する声が聞かれるが、それは、短期の為替変動が激しかったためであろう。やはり、安定は大事な要素である。 グローバル企業にとっては、円安が直接輸出増につながらなくても、海外事業が黒字であれば、そこから還元される利益が増加するので、結局はプラスに作用すると考えられる。ただ、最近ドルとユーロの動きが乖離しているので、その点は注意深く見ていく必要がある。